

令和7年度 山形県立小国高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校 訓	自律・忍耐・向上
メインテーマ	「積み、ほよほよ」
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 確かな心構えをもち、学び続けたいという態度・向上心・主体的に関わる人材を育成する。 ● 地域で豊かな人間性を育み、新たな価値創造に挑む人材を育成する。 ● 多様性や個性を認め、個性を尊重しながら協働できる人材を育成する。
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 小国高校の志を生きし「生徒一人一人が輝き、笑顔と感動を地域と分かち合う学校」づくりを実現する。 ● ** 育後（心）育成（能力） ** **（学校教育目標の実現のため） ● 主体性 「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思決定力・創造的市民性」 ● 協働性 「情報収集活用力・課題設定力・読解力・思考力・判断力・行動力・やり抜く力・伝える力・聴く力」 ● 協働力 「受容力・説明力・判断力・情報収集能力・読解力・思考力」

達成度	A: 達成された B: ほぼ達成された C: 中々十分である D: 十分である
-----	--

達成度	A: 達成された B: ほぼ達成された C: 中々十分である D: 十分である
-----	--

重点目標	重点目標の達成度	重点取組	学年	重点取組に対する具体的方策	中間総括時点で重点取組の達成状況	重点取組の達成度(年度末)	重点取組の達成度(年度末)の評価の根拠:年度末に実現された生徒や学校の姿 等		
1 個別最適な学び及びキャリア協働的な学びの推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の特色である「白い森未来探究学」や「教科等横断的な学習」、「国際教育」の浸透・深化により、本校生に育みたい資質・能力を伸ばす。 ○ AI学習システム活用を含め、ICTを活用した個に応じた指導、学習の個性化、協働的な学びの充実を図り、「確かな学力」を育てる。 ○ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的学習の推進により、キャリア意識を醸成させる。 ○ 個々の進路希望の実現のために、意欲的・計画的に学習に向かう態度を涵養する。 ○ 図書館等の活用や NIE 実践により高い教養と豊かな心を醸成させる。 	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「白い森未来探究学」や「全国高等学校小規模校サミット」等における地域の方や外部の方との対話を進め、協働的な態度の育成と自己の将来について考える機会を設定する。 ○ AIシステムを活用し、個に応じた指導や学習環境を提供する。 ○ 進路情報や入試情報を探し、生徒一人一人の進路希望と合わせて個別面談を行う。 ○ 朝読書を実施し、落ち着いた環境の中で授業を受けることができる環境づくりを行う。また、新聞取用について時事問題や社会問題を認識させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「小規模校サミット」では、2年生に助けてもらいながらも、多くの生徒がコマメンバーとして活躍した。コマメンバーだけでなく、友人に向けて心をこめて語り、成長の姿が見られた。「白い森探究学」の「地域を応援」では、小国町に住む大人数の話を聞き、いろいろな生き方と触れ自分の人生を考える機会を得た。 ○ LEAFシステムが導入されたので、今後英語・数学・英語で積極的に活用したい。 ○ 学生団体「やまのしん」を活躍させ、生活リズムや進路希望、人間関係などを個別面談を実施した。生徒と話し内容を学年内で共有し、生徒理解に努めた。 ○ 4月から朝読書を行い、静かな環境でSHRを行うようにした。1～2ヶ月ほどで図書館で本を借りるようになった。新聞を使った学習は、これから行う予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「全国高等学校小規模校サミット」や「白い森未来探究学」では、小国町の大人の方々や他の地域の方々、またクオースの友人と対話する中で、自分の生き方を考えることとともに、コミュニケーション力が上がったと目を輝かせながら話をする姿が見られた。 ○ 今年導入された「LEAFシステム」は、使い方を理解しつつ今後も教科指導に効果的な方法を模索していく必要がある。 ○ 進路に関する冊子を読んだり、朝学習で進路に係る動画を視聴させたりすることはできたが、面談では進路に係る話をすることが少なかった。 ○ 朝読書を行うことで、1時間目から落ち着いた様子で授業に向かう姿勢が見られた。また2学期からは新聞学習を取り入れたため、新聞を見ている生徒も何人か見かけるようになった。新聞学習では、自分で興味のある記事だけでなく、新設校や災害の話題を挙げる生徒も出てきた。 	
		2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通じてマイプロジェクト（探究学習）を実施し、計画力・行動力・やり抜く力を向上させる。台湾研修を通して自己表現力を高め、グローバルな視点と意欲を醸成する。 ○ 朝学習・授業・家庭学習でICTやスタディサプリなどを活用し、学習意欲を喚起させ学力向上を図る。 ○ インターンシップを実施して、振り返りを通して就業観や卒業後の進路について深く考察させた。夏季休業中にオープンキャンパスに参加した生徒が複数おり、学習に動いている。 ○ 進路情報・入試情報・模試結果などを提供し、個別面談において進路実現のために必要なことを伝えたい。 ○ 図書館資料と新聞記事を用いて時事問題、社会問題を知る機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進捗状況にはあるが、テーマを設定し探究活動を実施している段階である。 ○ 朝学習・授業・家庭学習でICTやスタディサプリなどを活用し、特に進路向上に効果を出した。 ○ インターンシップを実施して、振り返りを通して就業観や卒業後の進路について深く考察させた。夏季休業中にオープンキャンパスに参加した生徒が複数おり、学習に動いている。 ○ 進路情報・入試情報・模試結果などを提供し、個別面談において進路実現のために必要なことを伝えたい。 ○ 図書館資料と新聞記事を読むことへの呼びかけをするようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して「マイプロジェクト」（探究学習）を継続しながら継続して実践できた。全員が台湾研修旅行に参加でき、異文化体験に感銘を受ける姿が見られ、グローバル視点が向上した。 ○ 朝学習においてスタディサプリを活用することにより、集中力を保ちながらペースで学習意欲を養成できた。 ○ インターンシップ実施後の振り返りを通して、就業観や卒業後の進路選択について深く考察できた。長期休業中にオープンキャンパスに参加した生徒が複数おり、学習に動いている。 ○ 進路情報などを適時提供し、個別面談において進路達成のために必要なことを伝えたい。徐々に進路意欲が高まり、積極的な情報収集している生徒が複数いる。 ○ 新聞記事などにより、情報収集力と書く力・伝える力の獲得につながることをNIE講座などで学んだ。しかし、日常的に新聞を読む段階には至っていない。 		
		3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科等横断的な視点を持った教科学習・進路学習・探究学習を設計し、仕込むに有用な力を育てる。 ○ 朝学習や授業の取組を通して、生徒一人一人の学びの傾向や特徴を把握し、進路学習や探究活動での指導に生かす。 ○ 企業人面接・地域の大人と語る会・キャリアに関する事前講座等を実施し、ありたい自分や進路について考えを深めたい。 ○ 生徒に寄り添った進路決定のサポートを実施するとともに、進路実現に向かう流れを可視化して示し、見通しをもたせながら進路指導を行う。 ○ 朝学習・進路学習・探究学習の中で、生徒の探究テーマや進路希望に関する切り抜き進路の新聞記事を活用し、幅広い進路を持たせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動の中で相手の立場に立って数多くの情報源や各教科の知識を生かしながら多角的な視点でアイデアを出す様子が見られた。 ○ 企業人一人一人の学びの傾向や特徴を把握し、進路指導や探究活動での指導に生かした。 ○ 企業人面接と進路のガイダンスを通して、各自の課題が見つかり、進路に対する意識向上へとつながった。 ○ 進路指導を定期的に行うとともに、進路活動の可視化を促し意識させるようにした。見通しを持って動く生徒が増えた。 ○ 幅広い進路の進路希望の生徒に対して、医療や高齢者福祉に関する切り抜き進路の新聞記事を共有し、知識を深めさせた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動の中で相手の立場に立って数多くの情報源や各教科の知識を生かしながら多角的な視点でアイデアを出す様子が見られた。 ○ 自分や自分より進路指導を受けた生徒が複数おり、学習に動いている。 ○ 進路情報などを適時提供し、個別面談において進路達成のために必要なことを伝えたい。徐々に進路意欲が高まり、積極的な情報収集している生徒が複数いる。 ○ 新聞記事などにより、情報収集力と書く力・伝える力の獲得につながることをNIE講座などで学んだ。しかし、日常的に新聞を読む段階には至っていない。 ○ 探究活動の中で相手の立場に立って数多くの情報源や各教科の知識を生かしながら多角的な視点でアイデアを出す様子が見られた。 ○ 自分や自分より進路指導を受けた生徒が複数おり、学習に動いている。 ○ 進路情報などを適時提供し、個別面談において進路達成のために必要なことを伝えたい。徐々に進路意欲が高まり、積極的な情報収集している生徒が複数いる。 ○ 新聞記事などにより、情報収集力と書く力・伝える力の獲得につながることをNIE講座などで学んだ。しかし、日常的に新聞を読む段階には至っていない。 		
2 資質・一人ひとりを育む生徒の発達指導を導く充、社会的	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ・助言や基本的な生活習慣の確立に向けた援助・助言により、自律した社会人としての基礎固めを行う。 ○ 異なる立場や考え、価値観を理解し互いに活き活きと学校生活を送れるような取組を工夫して、自己及び他者を個性豊かな存在として尊重していく心を育てる。 ○ 学校行事やボランティア活動等への主体的取り組みを奨励し、生徒一人一人の自己有用感を高める。 ○ 継続的にいじめ防止対策を徹底することで、いじめのない学校を目指す。 ○ 社会とのつながりを生かし、地域との協力した放課後活動の充実・継続を行う。 	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 起床・寝起時間の固定や朝食の有無など基本的な生活習慣を確認し、自己管理ができる生徒を育てる。 ○ 自己の命を大切にするとともに他者を尊重する態度を育成し、生徒一人一人の居場所がある学年作りを進めたい。 ○ 授業や生活活動において、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ合いの意見を尊重できる機会を設ける。 ○ 生徒のやりたことを尊重し、校内外の多様な機会を紹介しつつ、「挑戦する心」を大事にさせる。 ○ 生徒観察やアンケート調査等により、いじめの早期発見やチーム体制での早期対応を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活時間調査を定期的に行うことで、生徒の起床時間・就寝時間・放課後の生活を把握するようになった。その中で、就寝時間の遅い生徒には声をかけて改善できるようにした。 ○ 人間関係の改善もあり、ペア学習などになることが多かった。しかし学期の後半からは、教科によってグループ学習ができる雰囲気も生じたが作れるようになった。 ○ ボランティアの参加を積極的にクラスで声かけすることで、生徒たちの多くがボランティアに参加できた。また、警察官からの表彰や学校外からのお褒めの言葉もいただくことで、生徒たちの自己肯定感を高める一助となった。 ○ 生徒観察や生徒面談、いじめアンケートを通して、早めに生徒の状況を把握するよう努めた。それによって解決できた問題はあるものの、校内だけでは解決できない問題もあり、外部との連携も検討している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活時間調査を定期的に行い、生徒自身も生活時間を視覚化することで時間の使い方を考えることができた。しかし、11月以降の夜間時間を意識させることができた。留學生を中心に欠席や遅刻が目立った。 ○ 様々な機会を捉え、お互いを尊重する態度について話してきた。まだ足りぬところはあるが、少しずつお互いのことやクオースのことを考えようとする姿が見られた。 ○ 人間関係の改善もあり、ペア学習などになることが多かった。しかし学期の後半からは、教科によってグループ学習ができる雰囲気も生じたが作れるようになった。 ○ ボランティアの参加を積極的にクラスで声かけすることで、生徒たちの多くがボランティアに参加できた。また、警察官からの表彰や学校外からのお褒めの言葉もいただくことで、生徒たちの自己肯定感を高める一助となった。 ○ 生徒観察や生徒面談、いじめアンケートを通して、早めに生徒の状況を把握するよう努めた。それによって解決できた問題はあるものの、校内だけでは解決できない問題もあり、外部との連携も検討している。 	
		2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の心身の特性に合わせて助言・支援をし、社会人として必要な力を育みに付けていく。 ○ 朝学習や生活活動などにおいて、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ合いの意見を尊重できる機会を設ける。 ○ クラスマッチや学校祭などの学校行事において、生徒が企画・運営に主体的に関わる機会を設けたい。 ○ ボランティア活動を随時紹介し、参加し続けた生徒が若干名いた。 ○ 生徒観察・アンケート調査・面談などにより、いじめの早期発見や複数名体制での早期対応を行う。 ○ 生徒一人一人の自己有用感を高める。 ○ 生徒のニーズを把握し、関係する放課後活動への参加を呼び掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の心身の特性に合わせて助言・支援をし、社会人として必要な力を育みに付けていく。 ○ 朝学習や生活活動などにおいて、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ合いの意見を尊重できる機会を設ける。 ○ 小規模校サミット、クラスマッチなどの学校行事において、生徒が企画・運営に主体的に関わる機会を設けた。ボランティア活動を随時紹介し、参加し続けた生徒が若干名いた。 ○ 生徒観察・アンケート調査・面談などにより、いじめの早期発見や複数名体制での早期対応を行う。 ○ 朝学習や生活活動などにおいて、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ合いの意見を尊重できる機会を設けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の心身の特性に合わせて助言・支援をし、社会人として必要な力を育みに付けていく。 ○ 朝学習や生活活動などにおいて、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、多様な意見に触れ合いの意見を尊重できる機会を設けた。 ○ 小規模校サミット、クラスマッチなどの学校行事において、生徒が企画・運営に主体的に関わる機会を設けた。ボランティア活動を随時紹介し、参加し続けた生徒が若干名いた。様々な活動により自己有用感を高めた様子が見られた。 ○ 生徒観察・アンケート調査・面談などにより、いじめの早期発見や複数名体制での早期対応を行う。 ○ ボランティアの参加を積極的にクラスで声かけすることで、生徒たちの多くがボランティアに参加できた。また、警察官からの表彰や学校外からのお褒めの言葉もいただくことで、生徒たちの自己肯定感を高める一助となった。 ○ 生徒観察や生徒面談、いじめアンケートを通して、早めに生徒の状況を把握するよう努めた。それによって解決できた問題はあるものの、校内だけでは解決できない問題もあり、外部との連携も検討している。 		
		3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに心通いし生活するための約束事を守らせるとともに、自己管理能力を育むために生活習慣や心の状況把握に努める。 ○ 互いに心通いし生活するための約束事を守らせるとともに、自己管理能力を育むために生活習慣や心の状況把握に努める。 ○ 学校と家庭との連携を深めるために必要に応じて随時家庭と連絡を取り合うとともに、学校行事や生徒の活躍を、月1回から連絡網やプリントを必要に応じて配布する。 ○ 学校で行われる避難訓練や災害初期訓練だけでなく、森林火災など小国町近隣で起きている災害を認識させることで、危機意識を持たせる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して過ごすためのルールが守られなかったり、モラルが欠けている行動があったりした場合には、学年内ですぐ共有し、積極的に対応した。また、同じことを繰り返さないように実行することを生徒自身と考えさせ、言語化させた。 ○ 思ったことをすぐに言葉にする生徒には、その場には行動を促さず、感情コントロールするよう促した。 ○ 活動や授業を積極的に進めたい生徒は、そこから生徒らしくもなっていた。 ○ 他者を理解する機会があったため、その生徒に対して個別に話し、自らの行動を振り返らせる機会をつかった。 ○ 学年全体に、自分の富が周囲に与える影響について話し、その後、個別対応した生徒が若干名いた。 ○ 講座への参加率や地域活動、ボランティア活動への参加率が高かったが、主体性が感じられなかった。引き続き、スケジュールを調整し参加を促すことと主体性を育てること課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目の面談を9月にを行い、6月にも担任による面談を行った。3回目の面談を9月に実施した。面談の中で、人間関係の悩みを聞き、改善策を提示した。生徒も納得した。 ○ 欠席が続いている生徒には、家庭に電話して状況を把握するなどして、家庭との連携を深めた。また、1月に1回、学年集会を行い、学校の様子や家庭に連絡した。 ○ 年度後半から新聞学習を取り入れる中で、火事の話を取り上げる生徒もおり、クラス全体で災害に目を向ける契機となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して過ごすためのルールが守られなかったり、モラルが欠けている行動があったりした場合には、学年内ですぐ共有し、積極的に対応した。また、同じことを繰り返さないように実行することを生徒自身と考えさせ、言語化させた。 ○ 思ったことをすぐに言葉にする生徒には、その場には行動を促さず、感情コントロールするよう促した。 ○ 活動や授業を積極的に進めたい生徒は、そこから生徒らしくもなっていた。 ○ 他者を理解する機会があったため、その生徒に対して個別に話し、自らの行動を振り返らせる機会をつかった。 ○ 学年全体に、自分の富が周囲に与える影響について話し、その後、個別対応した生徒が若干名いた。 ○ 講座への参加率や地域活動、ボランティア活動への参加率が高かったが、主体性が感じられなかった。引き続き、スケジュールを調整し参加を促すことと主体性を育てること課題である。
3 さる安心・安全かつ信頼	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域とともにある学校」としてユニバーサルデザイン推進やPTA活動を実施し、学校・家庭・地域が一体となった活動を向上して行う。 ○ 特色ある教育活動や生徒の活躍の場について発信方法を工夫し、学校の魅力を校外に積極的に伝える。 ○ 危機管理体制の維持及び施設設備の安全管理により事故防止に努める。 	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して過ごすためのルールが守られなかったり、モラルが欠けている行動があったりした場合には、学年内ですぐ共有し、積極的に対応した。また、同じことを繰り返さないように実行することを生徒自身と考えさせ、言語化させた。 ○ 思ったことをすぐに言葉にする生徒には、その場には行動を促さず、感情コントロールするよう促した。 ○ 活動や授業を積極的に進めたい生徒は、そこから生徒らしくもなっていた。 ○ 他者を理解する機会があったため、その生徒に対して個別に話し、自らの行動を振り返らせる機会をつかった。 ○ 学年全体に、自分の富が周囲に与える影響について話し、その後、個別対応した生徒が若干名いた。 ○ 講座への参加率や地域活動、ボランティア活動への参加率が高かったが、主体性が感じられなかった。引き続き、スケジュールを調整し参加を促すことと主体性を育てること課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1回目の面談を9月にを行い、6月にも担任による面談を行った。3回目の面談を9月に実施した。面談の中で、人間関係の悩みを聞き、改善策を提示した。生徒も納得した。 ○ 欠席が続いている生徒には、家庭に電話して状況を把握するなどして、家庭との連携を深めた。また、1月に1回、学年集会を行い、学校の様子や家庭に連絡した。 ○ 年度後半から新聞学習を取り入れる中で、火事の話を取り上げる生徒もおり、クラス全体で災害に目を向ける契機となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して過ごすためのルールが守られなかったり、モラルが欠けている行動があったりした場合には、学年内ですぐ共有し、積極的に対応した。また、同じことを繰り返さないように実行することを生徒自身と考えさせ、言語化させた。 ○ 思ったことをすぐに言葉にする生徒には、その場には行動を促さず、感情コントロールするよう促した。 ○ 活動や授業を積極的に進めたい生徒は、そこから生徒らしくもなっていた。 ○ 他者を理解する機会があったため、その生徒に対して個別に話し、自らの行動を振り返らせる機会をつかった。 ○ 学年全体に、自分の富が周囲に与える影響について話し、その後、個別対応した生徒が若干名いた。 ○ 講座への参加率や地域活動、ボランティア活動への参加率が高かったが、主体性が感じられなかった。引き続き、スケジュールを調整し参加を促すことと主体性を育てること課題である。 	
		2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝のあいさつ運動・研修旅行説明会・各種委員会などにおいて、家庭・地域との交流の機会を設ける。 ○ 学年を通じてHP・SNSなどを活用して、教育活動内内容や生徒の様子、活躍を定期的に発信する。 ○ 地震・火災を想定した避難訓練に加えて、外国や日本各地で発生した災害を取り上げ生徒に伝えることにより、危機管理意識を向上させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月から毎月実施の朝のあいさつ運動・7月の研修旅行説明会などにおいて、保護者と交流の場を持った。探究活動を深めるために、地域に出向き学習した生徒もいた。 ○ 年度当初と学期末に学年通信・毎月HP掲載・随時SNSなどを通して、教育活動内容や生徒の様子、活躍などを発信した。 ○ 地震・火災を想定した避難訓練に加えて、7月30日全国各地に発生した津波被害など様々な災害を生徒に伝えることにより、危機管理意識を認識・向上させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 欠席が続いている生徒や欠席になる生徒については、家庭との連携をこまめに取るようにした。10月には保護者と生徒面談を行い、保護観や個別関係性を深めたいことができた。 ○ 1月に1回、学年集会を行い、学校の様子や家庭に連絡した。 ○ 年度後半から新聞学習を取り入れる中で、火事の話を取り上げる生徒もおり、クラス全体で災害に目を向ける契機となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝のあいさつ運動・研修旅行説明会・各種委員会などにおいて、家庭・地域との交流の機会を設けた。探究活動を深めるために、地域に出向き学習した生徒もいた。 ○ 学年を通じてHP・SNSなどを活用して、教育活動内内容や生徒の様子、活躍を定期的に発信する。 ○ 地震・火災を想定した避難訓練に加えて、外国や日本各地で発生した災害を取り上げ生徒に伝えることにより、危機管理意識を向上させる。
		3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の大人と語る会や地域構想学習委員会など地域人材と連携した活動において、生徒と地域の大人がともに自身の生き方や町の未来を見つめ、学び合える機会となるようにする。 ○ 家庭や地域との協働関係を促進するために、月1回以上の連絡網やPTA活動での学年通信配信および積極的なSNS発信を通して、本校が育んでいる学校の魅力を発信する。 ○ すべての活動において身体面には適切な必要事項の事前確認に漏れがないように徹底するとともに、生徒が落ち着いた気持ちで活動できる環境整備も行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月から毎月実施の朝のあいさつ運動・7月・10月の研修旅行説明会などにおいて、保護者と様々な情報を交換できた。探究学習を深めるために、地域に出向き学習した生徒もいた。 ○ 年度当初と学期末の学年通信・ホームページによる毎月1回の学校の様子・随時発信のSNSを通して生徒の活躍や学習内容の発信、教育活動内目的も伝えた。 ○ 地震・火災を想定した避難訓練に加えて、東日本大震災発生した津波被害や津波被害の発生情報などをSHR・紙札で生徒に伝えることにより、危機管理意識を認識・向上させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の大人と語る会や地域構想学習委員会など地域人材と連携した活動において、生徒と地域の大人がともに自身の生き方や町の未来を見つめ、学び合える機会となるようにする。 ○ 家庭や地域との協働関係を促進するために、月1回以上の連絡網やPTA活動での学年通信配信および積極的なSNS発信を通して、本校が育んでいる学校の魅力を発信する。 ○ すべての活動において身体面には適切な必要事項の事前確認に漏れがないように徹底するとともに、生徒が落ち着いた気持ちで活動できる環境整備も行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の大人と連携した活動や授業、「地域構想学習委員会」を通じて、自身のあり方・生き方について深く考え、自分から表現する姿が見られた。また、社会の一端として意識を持ち、思いやり溢れる社会像について言語化できるようになった。 ○ 学年を通じて、学校の様子や生徒の活躍や、学年間の人となりを発信することで、生徒間及び生徒教師間の関係性を深めたいことができた。 ○ 年度当初と学期末の学年通信・ホームページによる毎月1回の学校の様子・随時発信のSNSを通して生徒の活躍や学習内容の発信、教育活動内目的も伝えた。 ○ 地震・火災を想定した避難訓練に加えて、東日本大震災発生した津波被害や津波被害の発生情報などをSHR・紙札で生徒に伝えることにより、危機管理意識を認識・向上させた。

【学年評価】